



あさひ

1月号

令和5年1月10日
横浜市立旭小学校



ASAHI_E.S._YOKOHAMA

「思いをもつ力」 「やり抜く力」 「関わる力」

【WEB】 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/>

【Instagram】 [asahi_e.s._yokohama](https://www.instagram.com/asahi_e.s._yokohama)

RESTART

“121st SCHOOL YEAR”

時代に即して“変わる” 勇気

校長 益子 照正

2023年になりました。今年は各所で初日の出を望むことができ、今日を迎えるまでに好天に恵まれた日が多く、正月とは思えないほどのあたたかさを感じた年の初めでした。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私にとって正月の風物詩といえば「箱根駅伝」。レース展開に一喜一憂することも楽しさの一つですが、いつも、そこには何かの学びがあるのも事実であり、そのことも併せて楽しさを味わうことができるのでしょうか。今年は、歴代わずか5校目という、駒澤大学の学生駅伝三大大会完全制覇という偉業を目の当たりにできました。競技こそ違いますが、私も学生時からスポーツを楽しんできた一人ですから、高い前評判通りに勝ち切るといことがどれだけ困難であるかということは、過去の多くの事例からもよく理解しているつもりです。その中で三冠達成、そこに想像を超える重圧とそれを乗り越える努力があったことは想像に難くありません。

その駒澤大学駅伝部を率いた大八木弘明監督が勇退されるとのニュースが飛び込んできました。コーチを含めて29年の指導で8度の箱根駅伝制覇を果たした同監督は、駒澤大学駅伝部躍進のすべてを知る指導者といえます。実に2000年の初優勝から2008年までに6度、箱根駅伝の頂点に立っています。しかし、その厳格な指導は変わらないのに、10年以上も優勝に手が届かなくなりました。それが、2年前に箱根駅伝で13年ぶりの優勝を果たして以降に再び躍進して今年を迎えたとのこと。その理由は何なのかと想像を巡らせていますと、復路のTV中継の中で解説者が「64歳にして大八木監督が変わられたのが、駒澤大学の強さの秘訣」という言葉を発しました。大八木監督の優勝後のコメントでは「変えたものはコミュニケーション。若かったときは一方通行で、『決めたことを全部やれ』というのがほとんど。今はいろんなことを話しかけて“なぜ？”と自分で考えられる選択肢を多くした。疑問をもたせることの大事さをテーマに。」とのことでした。これだけの実績を残した注目度の高い指導者が指導方針を変えるというのは、並大抵のことではないはずです。変わりゆく時代に即して、自分を変える勇気をもったことが、花を開かせたのでしょうか。ここに、私にとっての大きな学びがありました。

旭小学校の学校教育目標も「思いをもつ力」「やり抜く力」「関わる力」、大八木監督と同じように、学習者の主体的な学びに主眼を置いています。競技スポーツと学校教育は異なる部分もあるので、駒澤大学が箱根駅伝で示したように、目に見える劇的な成果を短期間でもたらすことは簡単ではないでしょう。しかし、「RESTART」を掲げた今年度の最終盤、目指している方向性に自信をもって学校教育を進めるための指標になったことに間違いありません。これからの状況をつぶさに把握し、考え方や考え方を即時的に“変えて”いく勇気をもち続けたいと思います。

どうぞ、今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【お知らせ】健康観察票の提出不要について

すべてのあさひっ子に提出のご協力をいただいております毎日の「健康観察票」につきまして、横浜市教育委員会による学校への通知や近隣校との相談の結果、今月より提出を必要としないことにいたします。ただし、感染拡大防止の観点から、引き続きご家庭では検温、体調管理をお願いいたします。